

2022年7月4日

2021年度「市民防災・減災活動公募助成」事業実施報告書

団体名 一般財団法人 ダイバーシティ研究所
代表者・役職名 氏名 代表理事 田村太郎



▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. 助成プロジェクト名

[リアル体験版]避難所運営訓練の実施

2. 団体の概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

2007年1月にIIHOE[人と組織と地球のための国際研究所]より発展的に独立し、企業の社会的責任(CSR)やISO26000の普及・啓発事業を実施。

2010年4月に法人化し、東京事務所開設。

2011年の東日本大震災の発災以降、被災者支援や復興支援活動などを開始。

代表理事 1名、理事 5名、研究員 2名、客員研究員 3名、評議員 3名、監事 1名

事業報告書(2007年度～2020年度): <https://diversityjapan.jp/about-us/>

3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

近年、地震や風水害などの大規模自然災害が多発しており、住居被害が大きい被災地では、長期にわたり多くの被災者が避難所での避難生活を送らざるを得ない状況がある。避難所の運営に配慮が不足してしまうと、避難生活で体調不良を起こすなど災害関連死を引き起こしてしまうこともある。被害の拡大を防ぐためには災害時に求められる柔軟な対応や、避難所の状況を的確に把握し適切な対応ができる人材を育成することが重要である。

4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

大規模自然災害の被災地での支援活動経験と自治体の地域防災計画等を反映した「リアル避難所運営訓練プログラム」を作成し、防災士や防災リーダー、行政職員等を対象に訓練を実施する。避難所での混乱や運営を模擬体験し、要配慮者等が直面する課題や必要な配慮を身近に感じると同時に、アフターコロナの避難所運営に求められる視点を探り、地域の避難所運営人材育成に取り組む。

5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

[結果]令和3年10月17日(日)開催 参加者:50名(感染症対策として50名で締切)

[成果]

①ひょうご防災リーダー(防災士と同程度の知識を有する人)を対象にした場合のプログラム上、特に留意すべき点の明確化

②兵庫県との共催になり、公開用(学習用)の訓練の動画を作成(県費にて作成中・助成金の対象外事項)

[効果]

- ①ロールプレイで進める訓練方法の提示
- ②知識だけではなく「被災した時の生活」視点が重要である事の確認

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

今回実施した訓練では、会場利用時間の制約あり、訓練時間を圧縮する必要があったので、対象者が防災リーダーである事を踏まえ、在宅避難者を含む被災者支援や被災者の生活などの座学を省略したが、訓練では予想外(在宅避難者の申し出を断る等)のロールプレイが多数発生した。防災リーダーや防災士が学んでいる知識とは異なる「生活」の角度から構成した座学を含めたプログラム作成が必要と考えられる。

7. 参考資料:プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等の現物またはコピー、活動状況の写真などを、“必ず”、別途、ご提供ください。

- ・ 募集案内- (兵庫県消防課 作成)
- ・ 実施要項
- ・ 学習動画(神戸芸術工科大学曾和ゼミ・ダイバーシティ研究所 作成)
兵庫県広域防災センターHP で限定公開(<https://www.fire-ac-hyogo.jp/leader/>)
- ・ 実施報告書冊子
- ・ 当日写真
- ・ その他の資料、結果は実施報告書冊子に収納

